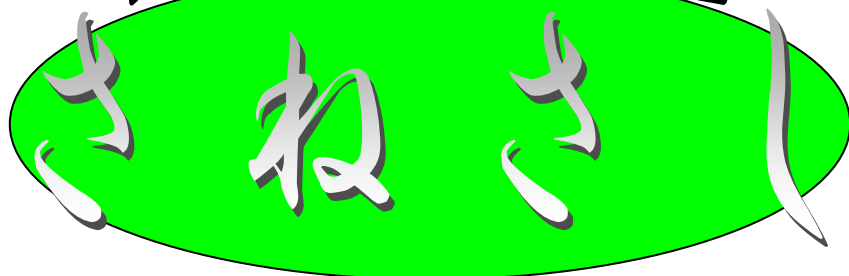


文化財調査・普及員通信



創刊号

発行
平成16年7月20日
相模原市文化財調査・
普及員広報グループ

*「さねさし」は相模の枕詞で、日本 ヤマト 武尊 タケルノミコト が東征の折に房総へ渡る時、妃の弟 オトダチ 橋姫 ハシヒメ が荒れた海を鎮めるため入水した際に読んだ歌「さねさし相模の小野に燃ゆる火の火中に立ちて問ひし君はも」がその由来です。「相模の小野」の場所については、市内大沼に伝承があります。(『相模原市史』第1巻より抜粋)

文化財調査・普及員 活動開始！

平成15年12月6日に44名の登録者により発足した相模原市文化財調査・普及員が、いよいよ本格的に活動を開始しました。5つの地域班や各自がフィールドワークを兼ねた文化財パトロール等を行っております。

文化財パトロールの成果あらわる！

大島の「やつぼ」の現状報告寄せられる！

大島地区の段丘崖から水が湧き出る「やつぼ」の現状について、情報が寄せられました。地元で建てた祠等が一部破損していたため、市教委では管理状況を確認するとともに、近隣の方に現況を伝え、破損の応急措置を施しました。



「大島 水場のやつぼの祠」

「新田稲荷神社の呼ばわり山」説明板改まる！

市登録文化財の「新田稲荷神社の呼ばわり山」の文化財説明板の表記に一部誤りがあり、早速説明板の表記を改めました。

「改善された

今後もぜひ情報をお寄せください！

説明板」



「民俗芸能を堪能しました」

民俗芸能大会に協力

2月22日(日)に開催された市教育委員会の主催「第24回相模原市民俗芸能大会」に調査・普及員6名が受付・案内等のスタッフとして参加し、活躍しました。

* 北部班の活動 (知ろう地域の文化財 守ろうみんなの文化財)

第1回会合(4月10日)

(1) 年間計画策定

- ① 全員参加(基本的に)の会合を月1回開催する。内容は下記の通り
 - a) 第1ステップ(4～6月); 文献による文化財の勉強会
 - b) 第2ステップ(7～11月); 現地調査
 - c) 第3ステップ(12～2月); 調査結果のまとめと発表・報告資料の作成

(2) 小班の設定

- ① 効率的な活動を狙って、班内地域を相原、橋本、小山・清新、大沢の小班に分け、小班ごとに個別に活動する
- ② 小班は2～4名程度とし、班員はいずれかの小班に所属する(希望により複数の所属することを可とする)
- ③ 小班の活動状況は月1回開催する会合(基本的に全員参加)で報告する

第2回会合(5月15日)

(1) 文献調査結果報告

各自行った文献調査の結果を紹介しあった

(2) 小班活動

各小班(相原、橋本、小山・清新、大沢)から1～2回行った「現地調査」の内容報告があった

(3) 次回(第3回)会合の議題

相原地区の現地調査計画(案)

(7月の第4回会合で行う予定の計画案の紹介—相原小班担当)

* 東部班の活動

1 年間活動予定

第1期: 4月～10月 東部班担当区域の文化財の現状把握

第2期: 11月～1月 分析・検討・評価

第3期: 2月～3月 まとめ・次年度の活動計画作成・反省会

2 当面(第1期)の活動方針及び活動状況等

- 方針: 毎月1回を基準に担当区域の文化財の現状を把握する。

- 活動状況及び予定

1回目: 5月1日(土) 淵野辺北部地域の文化財研修

2回目: 6月12日(土) 古淵～淵野辺東部地域の文化財研修

3回目: 7月3日(土) 淵野辺南部地域の文化財研修

4回目: 9月中旬 大沼地域の文化財研修

5回目: 10月中旬 1～4回目以外の場所(未定)



熱の入った調査状況!



たまにはポーズ!

* 西部班の活動

西部班は初回の話し合いで「地域にどんな文化財があるのか実際に歩いてみよう。」ということになり、フィールドワークからの活動になりました。

1回目の上溝方面へのフィールドワークは、横山丘陵の照手姫ゆかりの地である榎神社から「てるて姫の里、ロマン探訪の小路」横山丘陵緑地を歩き、日金沢橋へ向かいました。次に地域信仰の場である宝光寺、亀ヶ池八幡宮、安楽寺を回り、清水家長屋門を眺めながら上溝、下溝の鎮守である諏訪神社で締めくくりました。

2回目の田名方面では、四ツ谷の石神社から田名村の中心であった堀の内へ向かい、蚕影山と烏山領制札場跡を回り宗祐寺の山門をくぐりました。そして、江成久兵衛の墓から滝の渡しの山王坂を下り、ふれあい科学館、田名八幡宮を回りました。新堀の淵を歩き、ひの坂の下のためき菩薩から望地弁天、南光寺、民家資料館で民具資料等を見学し、係りの方から話を伺いました。

上溝、田名とも地域の愛好家によって管理・整備が良く行き届いていましたが、照手姫姥沢幻想の碑のいたずらと清水家長屋門の落書きは残念に思いました。

2回の活動を通しこれから文化財保護、普及活動をどのように行っていくか考えるにあたっての、共通の確認ができたように思います。また、お互いの得意分野や文化財への思い入れなど親睦も深まり、今後の活動に生かしていきたいと思えます。



烏山領制札場跡にて

* 南部班の活動

- (1) 調査テーマを「相模の古道」に決定。

6人の班員で検討した結果、何を調査・研究するにも関係してくる「道」に注目し、調査テーマを「相模の古道」とした。

- (2) 調査範囲を「武蔵・相模の両国分寺間の旧東山道」に決定。

調査範囲は武蔵の国分寺(府中)～相模の国分寺(海老名)に到る旧東山道で、現在の府中市、稲城市、多摩市、町田市、相模原市、座間市、大和市、綾瀬市、海老名市の9市に及ぶ長大な範囲となった。

- (3) 4月26日にフィールドワークを実施

実地調査の手始めとして、木曾地区(町田市)の一里塚から新戸地区の一里塚を経て相模国分寺までに到る約15キロのフィールドワークを実施した。

*フィールドワークを終えて・・・

かつての道は、人間が歩かなくなるとたちまち草藪に埋もれてしまい、やがて道としての痕跡を消してしまう。しかし、よく調べてみると、そこで人々が生活を営んだ跡が道ばたに残っている。

だが現代という怪物は、そこに住宅や工場やゴルフ場を建設して、先人たちの生活の匂いを、跡形もなく破壊してしまったのだ。

どこまで復元できるのか。第1回のフィールドワークを通じて、われわれはその課題に挑戦する決意を新たにしたのである。



町田市木曾地区の一里塚にて

